

## 機動地震観測：ポスト超モダンの地震観測研究？

## Mobile array observations as 'post-cho-modern' seismological research?

# 川勝 均 [1]

# Hitoshi Kawakatsu[1]

[1] 東大・地震研

[1] ERI, Univ of Tokyo

1995年の兵庫県南部地震以後、日本列島には Hi-net に代表される超近代的（モダン）な地球物理観測網が構築された。そのような観測網から得られるデータに囲まれて、データ解析以外に我々日本の地震研究者はどこへ向かえばよいのかというのが本“ ミニ特集 ”の開催趣旨のようである。

グローバル地震学の分野では、第2世代のグローバル観測網が確立した1990年頃から、アメリカ IRIS の PASSCAL プログラムを中心に、広帯域地震計を使った機動地震観測に研究の主流が移っていった。冒険心に富んだ地球上の様々なフィールドに展開された機動観測網が、データを共有するという約束のもと、20年近くたった今になってみると、新たなグローバル観測網として重要なデータ情報源となってサイエンスを押し進めているさまは、その先見性に感心するしかない。“ 箱もの ”だけに頼らない科学推進システムをつくりあげた IRIS にただただ脱帽である。

ポスト超モダン期の日本の地震学に、このシステムをそのままあて編めるのが良いのかはよくわからない。少なくとも、ひとまねはしゃくである。火山での広帯域地震観測、スタグナントスラブ計画での海底広帯域機動観測、そして現在計画中の中国東北部での巨大アレイ NECESSArray 計画など自分の関わった機動観測を軸に考えてみたい。